

# 神戸では 酔えない私

佐々木 久子  
え・津 高 和 一

私のように恵まれた人間も数多くないのではな  
いだろうか、と思うことがたびたびある。

「酒」と取り組んで十一年、日本全国をめぐり  
歩いては、おいしい酒を飲み、沢山の人たちにお  
会いする。

どんな辺地にいつても「酒」だけはあるし、ま  
た、その土地にゆかなければ味あうことのできな  
い食べもの、人情、風俗がある。

酒にイデオロギーがないように、私のおつきあ  
いする範囲も実に振幅がひろく、種々さまざまの  
方々と「酒」によるえにしを結ばせていただいで  
いる。

神戸という街は、日本の都会のうちでも最高に  
センスの高い街だと私は思う。大阪まで月に一度  
ないしは二度いつている私は、必ず神戸にも立ち  
よる。

十一年も通っていて、なにかしら大阪という街

にはなじめない私が、神戸という街にはひどく心  
をひかれた。

とくに私は神戸の元町商店街をブラブラするの  
が好きである。別に買物をするわけではないのだ  
が、洗練された品が、実にセンスよく並べてあり  
買いたいものに現われるお客さんたちも、ガサガサし  
ないで、しっとりした雰囲気ですつたりと買いた  
いものである。そんな商店街というものは、どこを  
探してもまずあるまいと思う。

一年中を着物をきてすごしているので、元町で  
買いたいものができるのはごくわずかの品物に限られ  
ているのだが、それでも、この商店街を歩くのは  
好きである。

もし私が、洋装をするのなら、みんなここで買  
うだろうと思うほどに、よいものが適当な値段で  
買える。決して安いとはいわないが、不当な値段  
でないのが魅力である。



神戸にゆくのは、灘の生一本がうまくのめるからだと本音を吐く前に、今一つ、元町にある「青辰」というすしやさんの「あなご寿し」が、おいしくておいしくて、これが喰べたいのでわざわざ神戸までゆくのである。

大阪まで行って、この青辰に出かけないと関西へ行った気がしない。関西テレビのレギュラー番組を二つ返事で引き上げたのも、毎週「青辰」のすしが喰べられるという喰い意地のはった考え方も大いにプラスしていた。

大阪には沢山のみ友達がいるのに、神戸にはない。……これは本当に淋しいことだが、結構なこともかもわからない。というのは、神戸という町にもし、気の合うのみ友達がいたら私は東京に住む気になれず、さっさと神戸に住みつくかもしれない危険性がある。

神戸在住の作家陳舜臣さんは、好きな作家の一人である。この方のお酒はとても楽しい。神戸にきたら寄ってくださいと言ってくださいさるのだが、私はご遠慮している。

なぜなら、神戸で酔ってしまったら、どういうことになるのか見当がつかないから。私という女は、惚れこむとのめりこむように突っこんでゆくタイプの女である。自分で計算してブレーキのかかるうちはなんとかもちこたえるが、ブレーキのきかなくなった私が、大好きな神戸の街で正体をなくしている図を想像しただけで悲しくなる。

灘の生一本をつくりだしている神戸の酒蔵を、張りつめた気持でみて廻わる。六甲からのきびしい空っ風と、海から吹きあげる潮風にもままれながら、私は十一年を「酒」の中に没入させたとも

いえる。

仕事を通して知った醸造元のご主人や、担当者の方々など、いつも気持よくつきあってくださる私がつよい酒豪であることも知っていてくださる先ごろ出た某週刊誌の対談には「女だてらに酒と心中を決意して」と大見出しがつけてあった。

「酒」と心中をするつもりは毛頭ないが、日本のあちこちを歩けば歩くほど、日本にはこんなすばらしい酒があるのだと思ひ知らされる。そして、酒を通して知った日本の歴史や人情や風俗のまことにすばらしいこと。またなによりも、日本人のもつ優秀性が、はっきりと擱めて私は、日本という国にうまれたことの幸せをとても感謝している。

「女にはロジックがない」といわれるが、たしかに女には哲学的にものを考えようとする才能がない。が、身体を通して知ってゆく才能はもっている。私が十一年、酒をたずねて日本行脚をつづけたこの体験は、なにもものにもかえがたい意義あることだった。

日本人にはまことに悪いくせがある。つまり土地のものをバカにするという風習である。目前にあるものは軽蔑して、なにか舶来品ならとてもいいと思う。この思想が全くバカげていることを日本全国を廻ってみると、実によくわかる。

私たちは私たちのしつかりした眼で、もう一度日本という国をみなおし大切にしなければならぬと思う。いち早く開国した神戸というハイカラな町に、日本らしいしつとりとしたよさが残っているのが、私にはたまらなく嬉しいのである。

□ 随想 □

# 酒徒落第

早川良雄

え・津高和一

年輪としのせいにか、あらぬか、近頃つくづく借家ずまいの佻たうしさが身にしみてきたようである。

こころの裕福さえあれば破れ長屋で結構、というふうな清貧の志などあろうはずもなく、よわい五十を目のまえにしてようやくへ自分の氣に入った果はにそこがはじめた。

が、如何にせん、スツカラカンのスツテンテンで手のうちようもなく、いたづらに他人さまの家を仰いで美望に明け暮れる今日このころである。

ところで、酒場で友人と飲んでいるときなど、なにかの拍子についこのことを愚痴ってしまう。すると彼氏曰く『終戦から二十年、君はずいぶん酒場がよいをしたが、せめて半分の回数におさえおけばよかったのに。とっくの昔に立派な邸宅が建っているよ』と。まさにその通りである。



しかし、事實はそうは問屋が卸さなかった。ほくの酒歴の始まりは、戦争が終ってから、復員ボケの顔をキョトキョトさせて大阪の街をうるついた頃、三十に近い年齢好であった。軍隊でも以前でも殆んど酒をたしなまない下戸であり、酒の味そのものを旨いと思ったことはなかったし、いまでもそれにかわりはない。

そのほくがなぜ酒を飲みはじめ、友人のあいだでもいっぱし酒飲みといわれるようになったか。理由は簡単である。酒場の味を知ったからだ。そのころ大阪のミナミに「マンタール」というスペイン風な店構えの小さいバーがあったが、なんとなくそこがほくたち悪童連の溜り場になった。明るく美しくセンスのある（まるでどこかの百貨店のスローガンのような）若いマダムが何よりの魅力であり、アコガレの的であった。デザイナリーの



山城隆一、いま巴里で絵を描いている泉茂、美術評論の森啓、毎日新聞学芸部の杉本亀久雄、二科の井上覚造、いまは亡い自由美術の荒井龍男、下着デザイナー鴨居羊子など、いづれ劣らぬつわものが夜毎に喧喧ごうごうと渦巻いていた。当時はこの店の他に雰囲気のある酒場などなかったことも手伝って、ほくなどキザな言いかたをすれば、戦争で失った残りの青春をすべて「マンタール」につきこんだような、見事な通いぶりであった。

この求心的な酒場がよいがほくの酒歴のプロローグになったが、要するに美女が発散するあらがうすべもない魔力がほくに酒に誘いこんだことに間違いはない。そのひとに会うためにはそこへ行かねばならぬ。行けば酒を飲まぬわけにはいかぬ、この単純な方程式が爾来二十年の才月、かわらぬ神通力でほくの行動を支えているらしい。

四・五年して酒場マンタールは常連から惜しまれながら消えていった。それはちょうどほくの青春のエピローグであったのかもしれない。それから第二、第三のマンタールを求めてあてどない旅が続くことになる。

さきにも書いたが、ほんとうに酒がうまいと思ふのはブランデーの極上品ぐらいで、そのほかに別にうまいと思つたことはない。すこしからだの調子のわるいときなどは苦痛に感じることさえある。ところが相憎くと体質がすぐアルコールに強くできているから始末が悪い。一杯のブランデーをチビリチビリなめるように飲みながら、二時間も三時間もネバルという粹な芸当がほくにはできない。杯を重ねても酔いつぶれない、ますます重ねる、個人経済の原則がみるみる崩れてゆく。

するとほくはそれから派生する奇妙な総合的「崩壊感覚」に酔いながら、もうどうにもあと戻りできない時間のなかで自ら地球の動きを停めてしまふのだ。

「三つの真実にまさる一つのきれいな嘘」などと、齒の浮くような他愛ないことを、涙さえみせて語りあつたマンタール（嘘つき）の青春は、その後の辛棒づよい酒徒遍歴にもかかわらず遂に帰つてこなかった。あたりまえのことである。世の中も変つたし、ほく自身も多くの人生を知つてしまつたのだから……。

いまは今まで、また昔とちがつた酒場の味である。酒に酔うことのダイゴミが軽口を叩く楽しみに變つてきているらしく、美女の虚像にかこまれて駄弁る影の時間のむなしさが、反転しては太陽の下、日々の「虚業」につながるのかもしれない。

いづれにせよ、ほくの酒場遍歴はこれからも続くことだらう。きよの時点でふりかえつてみて、その放浪と浪費のマイナスをいやというほど自ら思いしらせてみても、それでどうなるというものでもない。ただ残念なのは始めに書いた家（house）のこと。造型をなりわいとしながら、

いちばん基本的な住まい、という自己環境さえ、いまだに整えることのできない現実、ほくのばあいこのウラミはただただ「酒」に訴えるべきなのかもしれない。しかしである。かくの如きを愚痴るのは下のまた下、神聖なるバツカスから酒徒番附を降ろされても文句はいえまい。酒を愛するころには、それを金銭や形あるものに変身させてはならぬという、厳肅な神性が宿ることを失念していたらしい。

（ヘラフィック・デザイナー）

□ 随想 □

# お酒

田口寛治

「先生、お酒のほうは？」とよく聞かれる。好きかきらいかという質問である。その席に私のふだんをよく知っている学生や友人がいると、彼らは「こんな酒飲みに、好きかきらいかもないものだ」といったげな顔でニヤニヤする。だが私はそんなニヤニヤを無視して、質問者にこう答えることにしている。「量はダメですが大好きです」やはりこの答えが一番正確なところだと思う。

量についていえば、だれそれは朝から翌朝までヒザもくずさずに飲みつづけたとか、ウィスキーを一本、水でも飲むようにスーツと空けてしまったというような話を聞くと、私などとは別種の動物の生態を聞く思いがする。私がもしそんなことをしたら二日酔い三日酔いに苦しみぬかねばならないだろう。ビールなら四本、日本酒でも四

合、これが私の限界ギリギリである。幸いというか、この限界までくると「もう飲みたくなくなる」のである。それでも、無性にたのしくなり、ロットが多少あやしくなり、針ほどのことを棒ほどに、もつとも棒といつても丸太棒ではなくマツチの軸ほどにはあるが、いうようである。といって芸の一つもでるわけではない。長い酒歴の中で、道ばたに寝ころんだとか、ケンカをしたということもない。まことにおもしろみのない酔いっぷりである。

「好き」という点では「大好き」と答えるほかはないだろう。カゼをひいて熱があらうと、下痢をしていようと、この十数年間、一滴もアルコールが入らなかつた夜はない。灯ともし頃ともなれば、かわききつた海綿のようにパサパサしてき



て、ひたすら「しめり」を求めぬ。どうも私は空腹を空腹としては感じられないようである。まず「かわく」のである。かわくとしめるまでは落ちつかない。この「こらえ性のなさ」が私を実際に上に酒飲みに見せるのだと思う。

昨年一年間ジンマシンに悩まされつづけた。私の周囲はみな「お酒のせいだ」という。お医者さんまでが同調しそうだった。だが私はあれほどいとおしんでいるお酒が私の体内で私に害をするとは信じられなかった。私のためにも、お酒のエン罪をはらしてやりたかった。ついに原因をつきとめた。私のジンマシンはもっと神経症的なものだった。昼間、あまり会いたくない顔や見たくない顔を見ると、夕方から発疹がひどくなることに気づいた。それ以後、そういう顔に出会うと「あの顔を飲んで胃のフにいれるわけではないし、中毒なんかしないぞ」と心中でジュ文のようにとなえることにした。おかげで全快した。それほど私はお酒がよいのである。

新春の朝日新聞に小島政二郎氏が明治の芸人について書いた随筆があった。正直なところ私は小島氏の文章にいつも何か抵抗を感じるのだが、その日のものは胸にひびいた。「芸域が狭く」「一流の大家にならず終ったが、うまさという点では一頭地を抜いていた」という落語家「小せん」の話である。小せんは酒好きで、いつも極貧で、晩年めくらになり、腰から下の自由を失って、人に負ぶってもらって高座に上ったそうだ。小島氏はそ

の小せんの「詩のような遺作」を紹介している。引用させていただく。

飲み馴(な)れた酒ぢやもの

いまし、もう少し

飲みたいけど、オイテオコ

生姜(しょうが)もて来い、

湯漬(つ)けにしよ

月も出ぬかや、風も来ぬ

鳴かぬ蚊が刺す、お肘や打てよ

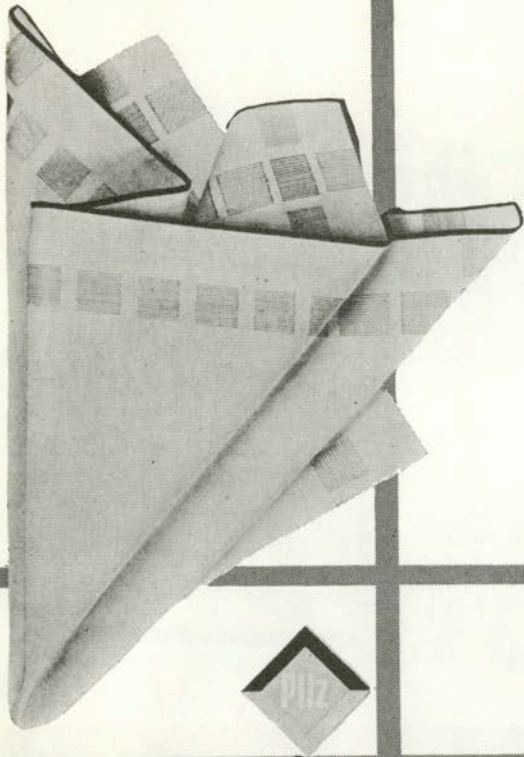
おれの体に血があるか

芸とは無縁であり、また飲んでも歌うすべを知らない私だが、これまで重ねてきた盃の底にこれと同じ思いをこめたことがあったように思う。私が老いさらばえたら、もっとはげしく同じ思いをこめることであらう。

正月に飲みに来た学生が「もし先生がお酒の味をこれまで全然知らなかったとしたら、お酒のある国とない国とどちらに住みたいですか」と聞く。たまたまその日、私は前夜しゃべったことしたことがたまたまなくおろかしく、くちおしく思えるあの二日酔いの最中だったので「やっぱりお酒のない国のほうがいいね」とこともなげに答えた。

だが酒気 of 全く抜きたいま、同じ質問を受けたら「そんな大問題をきめるのだったら、その前にパイやって、ゆっくり考えさせてほしい」というだろう。そしてやがてまた、小せんの歌をうたっているにちがいないと思う。(神戸大学教授)

ピルツハンカチーフ……………〈西ドイツ製〉  
色のあせないインダンスレン染  
型のくずれない糸抜カット



日本販売元

**元町バザー**

神戸元町1丁目 TEL(33)1401・7031



**柴田音吉洋服店**

神戸・元町通4丁目 神戸 34-0693  
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106



あなたの眼を  
よりいっそうチャームする  
おしゃれメガネ



おしゃれ



メガネの

**神戸眼鏡院**

元町3丁目 ☎ 3112 ☎ 1443

三宮店 三宮地下街 ☎ 1874-5

気温の変化をエネルギーとし  
永遠に動く  
スイス最高の置時計  
アトモス ¥ 150,000



特約店



**美甲時計店**

元町店・元町三丁目 TEL33-1798

三宮店・三宮地下街 TEL33-8798





〈写真は榎並正一氏〉

★神戸っ子対談★

# 神戸っ子奮起せよ!

榎並正一 〈阪東調帯ゴム株式会社社長〉

砂野耕一 〈川崎重工業株式会社資金部〉

砂野 私が学校（慶応）を卒業して神戸に帰ってから十  
二、三年になります。榎並さんにいろいろお世話にな  
りましてね、夜の神戸も半分ぐらいは手ほどきしてもら  
ったと思います。（笑）夜昼ともいろいろとね。

榎並 なにせ、先代以来のつきあいですからね。（笑）

砂野 この頃は、アメリカに行ったりソ連に行ったり、  
榎並さん、一年に一べん位外国においでになってますか

榎並 ええ、それでも、もう少し行かないかんなと思いま  
す。毎年一回以上のことがあればいいと思います。最近  
の激しい変化がわかるためにはね。日本も変化が激しく  
なりましたが、向うさんだって激しい変化なんですから  
ね。

砂野 交通機関が発達して、距離がなくなりましたね。  
この頃はもう、一週間ぐらいの旅行じゃないですか。

榎並 そう、おまえ行ったんか帰ったんか、という調子ですわね。(笑)

砂野 神戸の青年会議所でもわりあい海外に行くのが多くなっています。韓国でも真珠の養殖をやるという話や染物の依託加工をやらしたり、その他過当な商売があるらしいですね。二時間ぐらいで韓国に行けるんですね。この辺でウロウロしている間に行ってしまうんです。東京へ行っているのとあまり変りないですよ。

榎並 事実そうなっちゃってるんですね。もう遠くないですよ。それでどんどん出かけていかないと、考えかたがまちがってくる。日本を離れてみるということ、日本がエエとかワルイとかいうんじゃなくてね、これが必要なんです。

京阪神を一体的につかまえる

砂野 四年後の万国博なんですが、われわれにとつてこれからのいちばん大きな問題なので、多くの計画があるわけです。大阪が地元だから京都や神戸がどうのといっているようじゃ、とても大きな仕事ができないと思いませんわね。

榎並 万国博は、これは日本単位で考えないといけませんね。中心は京阪神でも、それは近くにおるだけのことです、この京阪神がひとつになって仕事をすすめなければいけないと思う。経済圏からいえば、京阪神はひとつなんですし、現在の行政区画で区別すべきではないということでしょうね。

砂野 そう、区別していたら、お互いに困るわけですからね。この万国博で、西日本経済圏をまとめるといふかその発展のきっかけになるだろうと思うんです。山陽新幹線ができるとか、中国縦貫道路ができるとかあるわけなんです。

榎並 オリエンピックとはちがうんだということですね。ものの考えかたでは、西日本経済圏が発展するための契機ということなので、これがなかつたらやりにくい。このための費用は日本全体で負担すればいいんです。

砂野 そういえば、この西日本経済圏のイメージは、昭和十六年ごろからあったんですね。

榎並 ほう、そんな記録ありますか。  
砂野 昭和十六年四月には、明石・鳴門海底鉄道の計画があつたり十七年九月には瀬戸内海経済振興連盟がつくられて、その本部が神戸商工会議所に置かれています。われわれの先輩が考えていたんですね。

榎並 戦争前にはね、大阪と神戸を一体的にとらえるという考えかたもずい分進められていたんですよ。直木さんなんか中心になりましたね。一体でなかつたら、何もあらへんねん。

砂野 この昭和十六、七年のころに、リーダーシップをとってやっていける力を神戸の経済人は持っていた。次の時期に、果たしてわれわれがリーダーシップをとれるかということを考えますね。

榎並 万国博で出てきているイメージは、みんな以前のものがあつたわけですよ。南日本国道をつくろうというのも、戦前に出ていたと思います。

砂野 そういえば、地方から、例えば九州から神戸に出てこられてここで事業をおこした方が多うございますね  
榎並 ウチは地下ですが、あとのかたはみな地方です。神戸は新開地なので、この人でない人ばかりですよ。

事業をやるうという人たちが、合理的に考えてここがよろしいと選んだわけです。まア、清盛以来の歴史もあるんですが、結局、自然的な条件が良いからここになるんですね。この土地の間人だと、神戸にたいして身びいきになる。神戸がここまで発展したことを考えるとき、もっとフリーな立場で考えて、この条件にふさわしいことをすればよいということですね。

バイタリテイのある神戸に

砂野 原口市長は佐賀のひとですが、自然の条件が悪いところでは、人間は鍛えられる、神戸は条件が良すぎるから気をつけなけりゃいかんというところなんです。

榎並 そうそう、全くその通りです。私は自分がそうだ



からよくわかりますよ。だから私の息子もドイツへ行きたいっていい出したので、向こうへやっています。これまで神戸人ももってきたバイタリテイを失わんように努力せんらんと思いますがね。この神戸のように条件の揃いすぎたところでだけ暮らしていたら、上向きの姿勢のとき、ナマツチャうんでしよう。

**砂野** 姫路でも、岡山でも非常にバイタリテイをもつてやっている。それにくらべ神戸のバイタリテイは、つねに西日本経済圏を考えるというスケールの大きなものなんでしょう。先輩のもつておられたバイタリテイはスケールの大きさがあった。これは、どこにでも胸を張って神戸っ子のいえることなんですよ。

**榎並** バイタリテイの問題もね、これを大へん意識してやったのが、神戸一中の鶴崎のジイさんなんです。極端ともいえるくらいにね。

**砂野** 「質素剛健、自重自治」といましてね、冬は寒くてもオーバーを着ちゃいかん……

**榎並** この（ズボンの両ワキ）ポケットを全部縫っちゃうんですからねエ。（笑）昼飯は運動場で食わす、とかね。このヤツはボチャっとしよんねんと、だから、そ



〈写真は砂野耕一氏〉

こでもひとつひねくってやらんと、将来のためにもならんということだと思えますね。

**砂野** 神戸に居っただけでは、わからないですからね  
**榎並** 日本の民族だけじゃなくて、今でこそね、異人さんが国内にたくさんおられる。それが神戸では、あの頃からすでに、異人さんの数も大へんな数でしょう。神戸が発展するには、この異人さんと、地下のもの、それに日本の各地から集まった人々の力があつたのです。異民族との交流が自然にいつている点では日本一ですね。  
**砂野** 万国博を目標にやっていくとき、外国へ行ってでも考えてみようかという、そんな考えかたですけれども、それがやりやすいと思えますね。

**榎並** 万国博は、いまの目論みはどうかしらんけど、新しい人づくりと、その西日本経済圏の問題ですね、その基礎ができれば、それでいいと思えますよ。目さきの小ゼニもうけのためにしてもダメですね。バイタリテイのある人間をつくれたら大きいものです。それで、日本が少々損をしても日本はつぶれしませんよ。日本が夜逃げした方が高うにつきますワ。（笑）

**砂野** 明治維新のときは二十代が中心になって大事業をなして、文明開化を迎えたのですが、万国博は会長が八十代ですからね。

**榎並** 明治にたよらないとできないのが現状なんです。

**砂野** 「青年の意気旺んにして国興り、青年の意気衰えて国衰ゆ」ということばがありますね。

**榎並** そう。その意気さかな青年のネタづくりが、万国博でできれば大成功ですよ。新しい土木建設ができるよりそのほうが、大へんなことですね。

**砂野** タネをつくるということですね。

**榎並** 今の青年の次の連中を、育てるタネづくりの目標として、考えるように、万国博を無理

矢理にでもしてしまおう。ということですよ。(笑)

### 一匹狼で自信をもて

**砂野** この神戸の街はもって静かな街でもっとのんびりした街だったと思うのですが、どうもやかましいし、いそがしいしね。須磨の方も、まとまりの良いなごやかなところだったのに、もうこんなに新しい団地ができるとうちがいますね。

**榎並** 私はね、新しい団地の人達は、もうそんな雰囲気じゃなくていい、と思うんですよ。変っていかないかんのじゃないか。まア、あんまりねエ小ゼニを稼いだら賢いとか偉いとか犠牲というようなことはアホやねんとかいう雰囲気、これがいま毒しているんじゃないですか。

**砂野** まア、神戸の持っておったよさっていうもんは、これからの新しい町づくりのなかで残して置いて、落ちついて住める街にしていきたいと思えますね。

**榎並** いまはね、或る意味での悪さからきたものを、エエコトのように思いこんで錯覚を起しちゃってる、そんな時代でしょう。それが流行やねんとか、それがエエカツコやねんとかいうのが巾をかかすんですよ。これを、昔の神戸のよさに復帰するよう、向きを変えないかと思えますね。

**砂野** 神戸っ子よ奮起せよ、といいたいところですね。

**榎並** 神戸のよさというのは、地理的な産物でなくてねオール・ジャパンからよりすぐれたものと、世界中からよりすぐれたものが融合しているんでしょう。このよさが大切なんですよ。

**砂野** 東京に行ってみても、あんまりモノを知りませんな。神戸のよさといっても知らんのですよ。広く紹介しなければいけませんな。

**榎並** ホントの江戸っ子のよさなんて、いまはないんで



しよ。変な意味の東京の悪さが、伝播しやすいですよ。マスコミを通じて一億総白痴化が進むんですからね。やっぱり、神戸っ子よ奮起せよ、といいたい。(笑)

**砂野** 神戸は西日本経済圏のなかで、瀬戸内海市ができるとしたら、その市役所を置くところなんですからね。輸出も日本の30%は神戸港を中心とした港ですし、大阪京都にない役割があるわけですよ。

**榎並** 万国博の玄関番として打ってつけなんじゃないかな。(笑) ヨソノモノを排除するという思想が全くない。「ノコノコ」なんてことはも神戸でできたんでしょう。

「アイノコの子」の意味なんだけでも軽蔑するような調子は全然ない。西部劇なんかの一番の理解者に、神戸人はなれる素質があるんですよ。反面神戸の悪さは、お祭りが無い、ド根性みたいなもんがない。気分の良い土地ですから、安楽になるだけなんですな。

**砂野** 神戸の経済人で、大阪や東京に出て働いている人が多いが、土地のものは外で活躍している人を知りませんね。それに最近では、人がやっとなるようなことやっとならば、それでエエやないか、という気分が濃い。海外旅行で一匹狼のように自分の問題を抱えて一人で行ってけると

いうことで鍛錬しなければダメですな。

**榎並** 団体で馴れ合い、モラレ合っていたのではダメです。一匹狼になって、自信をつけるということがいいんですよ。

**砂野** 神戸人にありがちな、苦痛を避けようという気持ちになしに、先人のもったバイタリティを越えるぐらいのバイタリティが欲しいと思います。

**榎並** 結局、神戸っ子よ、奮起せよ、そして一匹狼で自信をつける、ということですか。(笑) <文責・編集部>



## 経済ポケット ジャーナル

### 新会員獲得、発展を図る 神戸商工会議所

新しい年を迎えて各団体とも新年の課題を抱えているが、神戸商工会議所のこの年の課題は会員の倍増。浅田長平氏が会頭に就任して二年目。積極、活発化を図る浅田会頭のもとに、昨

年に「瀬戸内経済圏」づくりに乗り出し、四国経済界、岡山経済界との懇談会、国際空港建設案を打ち出したほか、万国博関連事業としての「夢のかけ橋」、中国縦貫道、山陽新幹線など基盤整備の促進を声を大にして叫んできた。さらにことしも積極的にこれらの事業を推進する方針だが、ますます活発化するためには会員をもっとふやさなければならぬとして、会員倍増運動を起すことにしたもので、ご利用の四日、職員を集めて浅田会頭は「京都ですら五千人の会員がいるのに神戸が二千五百人というのはどうみても少ない。ことし中に五千人にふやすよう全員努力せよ」とハツ



バをかけた。さっそく翌日の常議員会で会員増加特別委員会を結成、浅田会頭みずから委員長となつて猛運動に乗り出すことになつたが、会員をふやして神戸市のためになる仕事があると行なわれるよう期待した。

### 中央総合市場へ目一 新する東部卸売市場

このところ消費者物価の値上がり激しく、主婦たちも頭を痛めているが、中でも問題なのは日常の生活に直接ひびく青鮮食料品。青鮮食料品の流通になくてはならないのが中央市場だが、神戸中央市場の東市場が東部第四工区へ移転すること

がほぼ確定的となつた。東部市場は現在灘区岩屋にあるが、敷地も一万二千五百平方メートルと狭いうえ、将来高速道路、臨海鉄道の通貫で分断されることになつた。このため移転を迫られたもので、現在埋め立て中の東部第四工区へ移転するよう、東市場移転計画調査会が原口市長へ答申した

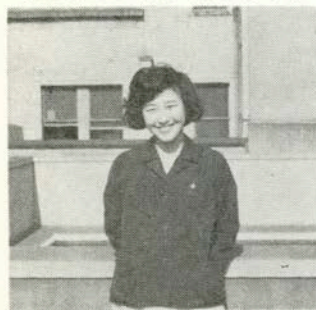
もの。市当局では同工区を内買ふ頭、卸売問屋団地、総合市場を集めた国内流通センターにする計画で、その核となる東部市場の移転を待っていたが、これより早く目度がついたというところだ。新しい敷地は十萬平方メートルと大きく、さらに海陸交通の要点となるため、現在扱っていない鮮魚も含め、市内東部だけでなく芦屋、西宮、伊丹、宝塚など阪神間百万人を対象とした一大中央総合市場にする方針で、冷蔵庫、貯蔵庫なども設け、近代的で明るい取引の場として、市民の台所にサービスできるようなになると期待される。

### 港の大動脈めざして 建設進む摩耶大橋

神戸港の新港ふ頭と摩耶ふ頭を結ぶ連絡橋このほど東灘区本山町の浅井つや子さんによって「摩耶大橋」と名づけられたが、工事の方も順調に進み、昨年末か

ら橋げたの架設工事が始まった。この橋は、いま建設中の摩耶ふ頭を市内道路に頼らずに新港ふ頭に直結させ、遠回りのロスを避けるとともに、市内道路の交通量増加を防ぐために一昨年暮れから着工されたもので、ことし六月ごろに完成する予定。全長二百十メートル、その間橋脚は一本、しかも船の航行をスムーズにするため、橋脚を東へ寄せたり、東側七十メートル、西側百四十メートルの変型橋だ。橋げた工事でも従来の方法と変り、陸上で組立てた橋げたをフローティングクレーンでつり上げて架設するもので、短かい方でも四百四十メートル。港に優美なアーチを画き、神戸港の newName としてこの橋が登場する日も近いが、摩耶ふ頭が完成すると、交通量は一日一万台強とみられており、港の大動脈としての使命を果すだろう。

### \*KOBE オフィスレディ\*



山田 洵子 (22)  
三井物産 KK 勤務

健忘ないをや  
すは音楽、結  
はき音か、考  
はき音か、考  
はき音か、考  
はき音か、考  
はき音か、考  
はき音か、考  
はき音か、考

おんがら屋



きものと細貨

おんがら屋

神戸

西店 / 三宮センター街・電話 33-8836 (代)

東店 / 三宮センター街・電話 33-0629

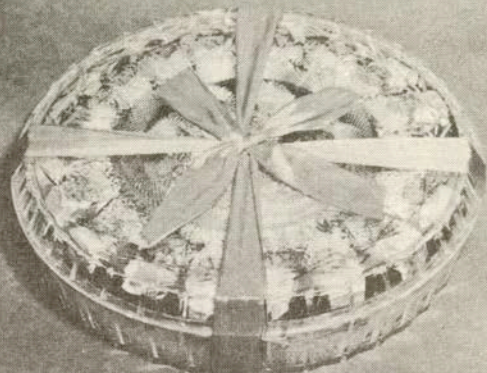
三宮店 / 三宮地下街・電話 39-4303

東京

新橋店 / 新橋 2 丁目・電話 571-0807

銀座店 / 京阪神銀座タウン・電話 572-4847 (直)  
(銀座西 7 丁目・並橋)

フランス風 高級銘菓  
マロングラッセ



ご購入用 ¥500～¥3,000

神戸にそだって 70年

扇 月 堂

元町3丁目 TEL 392412～5  
さんちかスイーツタウン TEL 393455



# 重症心身障害児

有井 基



手が動かないかわりに唯一の左足で絵を書く子供  
〈神戸市兵庫区で〉

中から、汚臭の塊りが鼻を刺した。電気がつく。高窓が一つ開け放たれ、火の気のない部屋に、娘の夏子さん――仮名――が寝かされていた。匂いを消すほどの寒さの中に、なおこもる悪臭。それは夏子さんの、寝たまま流す排泄物、膏薬と見まがう垢のおいだった。

「火事起さんように、火の気は置いとりませんのや。空気が抜きに、あの窓あけっぱなしやが、なにぶん動かせんやろ、雨で吹き降りになつたら処置おまへんわ。それにしても不思議やなあ、風邪もひかん。死んだより悪い状態やさかい。これ以上、病気はくっつきまへんのかなあ」

夏子さんが生まれたのは「終戦のあけの年」だから、十九歳。四歳の秋、和歌山の病院で脳性小児マヒ、股関節脱臼と診断された。以来、歩くことも話すこともできず寝たきり。三年前、このアパートへ背負って運んでくれた母親(四三)は、間もなく姿を消した。それからは父娘二人暮らし。

十九年間。いままでどうしていたのか、という非難はあたらない。和歌山で役所へお百度を踏んだが面倒な手続きをしただけで何の措置もなかった。公立病院では何べん診ても同じだ、ととりあってくれなかった。

「女房がおらんようになってから、毎日この子を殺すことばかり考えつづけてきました。せやけど踏んぎりつかん。それが近ごろ、自分でも思いつめるのがこわ

Aさんと会ったのが夜の七時。半時間後に神戸市生田区下山手通×丁目の木造アパートをたずねた。「事情を聞いてやってほしい」――知り合いの船医からAさん(医療ソーシャル・ワーカー)が連絡をうけた相手は、高木保男さん(四六)――仮名。港の労働者だった。

約束の時間はかなり過ぎていたが、部屋はカギがかかっていたまま。灯も物音もない。出直そう、と降りかけた階段で、高木さんと会えたのは幸いだった。あとで聞いた話だが、家に帰るのは気が重く、酒を飲んで帰り忘れるのがつねだという。

高木さんがカギをとり出し、ドアを開けた瞬間、闇の



なって……」

いかつい感じの高木さんが、初対面の他人に涙をみせた。Aさんは、身障者手帳の交付申請などに動き出した。見通しは、しかし暗い。

「せめて一年早ければ……」

残念がるが、仮りに十八歳未満でもさほど変らないことを、Aさん自身、知りつくしているはずである。

× ×

昭和三十八年、神戸市は全国のトップを切って重症心身障害児福祉年金を設けた。いまの市内の受給者は、

東灘区39、灘46、葦合20、生田11、兵庫66、長田73、

須磨27、垂水53の計三百三十五人。

高木さんのような未登録者が、同数ぐらい潜在しているともいわれる。

神戸市は四月発足をメドに、全国に先がけて重症児のための「保険扶養制度」を検討している。重症児が、保

護者の死後も一定の年金をうけて安定した生活を守れるように、という趣旨。生活が苦しくて掛金もできない親はどうするか。それが解決すれば、全国でも注目されるケース。

それでも親たちの「まず施設を」という要望は日ごとにつのる。

長田区久保町で、三人の母親が集まった。うち一人がいう。養護学校へ行けば、教育不能だから、といわれ、のじぎく整肢学園では、重症すぎる、と断られた。

「盲ろうあ児には学校があり、精薄には学校、学級があるのに、二重、三重の障害児には何もない。いちばん保護の必要をもつ子どもが、いちばん放っておかれる。」

「ほんまや、直らへんから助けてもトクにならん。トクにならんもんはほっとけ、ということや」

二人の母親が語るのを聞いていた小学校教員の妻Bさ



すわることも立つこともできない子供たちは何を考えているのだろうか〈大津市神出町びわこ学園で〉





寝たきりだった子供も施設にはいってから車イス・三輪車に乗れるようになった(大津市びわこ学園)

んは、その時、静かにいった。

「私も同感です。けれど、この子たちに、教育も、機能増進訓練も、可能なんです。リハビリテーションというのは、生きる可能性を伸ばすことだと教わりました。たとえ一センチでも歩けたら……それが希望なんです。ホラSちゃん笑ってますよ。この子らも、表現を持っているんです」

さきの高木さんは「死んだより悪い状態」といった。しかしそれも「生きる可能性を伸ばしたい」ねがいの反語である。僅かでも残された能力を引き出す、それが教育であり、人間尊重の精神だ。

現在、重障児の収容施設は東京の島田療育園、秋津療育園、滋賀県のびわこ学園の計三カ所。全国一万七千人(推定)の重障児に対して五百七十ベッド。西日本唯一の施設「びわこ学園」へは、神戸市の場合、入園希望者七十余人中、去年はいれたのは六人だけだった。

十二月中ごろ、秋田県から東京の秋津療育園へ入園し

たばかりの二人が死んだ。長い旅の疲れによる心臓マヒ。新春七日には同園への入園を待ちわびた静岡の父が、脳性マヒの息子をしめ殺した、施設の無い悲劇。よそごとではない。

× ×  
神戸にもほしい。ほしいが簡単にはいかない、びわこ学園でも赤字つづき、寄付でのやりくりも限度がある。入園児の五割以上が生活保護家庭だ。一部だけに負担はかけられない。いきおい人件費にシワ寄せされ、職員への待遇は、奉仕的、だという。

「神戸は熱心な市です。一億円出せば独立した収容施設をつくれるでしょう。しかし施設をつくっても、人がない。医師、看護婦、保母……すべて不足の上に、こう待遇が低いと集まりませんよ」

同学園の岡崎英彦園長の声は重かった。重障児は特に手がかかる。国立病院でさえ「看護婦さんは疲れすぎ」と人事院が判定したほどだ。なり手がないのも当然だろ

う。現に、同学園は人手がないため十五ベッドが遊んでいる。暮れに建った。「第二びわこ学園」も定員百人の最新設備をもちながら新収容児はとれない。西日本だけで八百人の親たちが待ちつづけてきたというのに！

神戸市中央児童相談所の路原孝所長らは、以前から、人の養成こそ急務だと説いていた。コロニーや施設も大事だが、専門の看護婦、指導員、技術者づくりが先決！と。それなら神戸でもできるはずだ。

いま、医学的リハビリテーションをこなうDT（理学療法士）OT（作業療法士）の養成所は東京と九州にあるだけ。高卒後三年で専門職として身分が確立するよう国会でも法律が通った。そうした学校が、関西にもなればばうそだろう。

施設がすべてではない。世界的に有名なフィンランドの「子どもの城」も、人教は限られている。だのに、施設をふやせふやせぬの問題がないのは、在宅児もすべて同じ保護をしているからだという。

機能訓練士、言語訓練士、医師、心理学者が巡回して訓練をほどこし、親に助言をする。歩行補助具や薬など子どもに必要なものは全部国が支給する。

ほうっておけば悪化する一方だ。専門家のチームワークで療養させればよくなる。数多くのデータを持ちながら、わが国の訪問診療、巡回相談は民間の要望、識者の意見でおわってしまふ。政府は月千二百円の年金を重度精薄児に出し、ことしは重症身障児にも適用するというが、それも保護者の年取二十万円以下という制限つき。ほかにも数々の条件がある。

対策がこうだから、予防体制もお粗末。さきに兵庫県は、新年度から新生児にフェニールケント尿症（精薄収容者の〇・二％）の一斉検査をすると発表した。こうした試みが、予防体制づくりの糸口にならないと、せつかくの意義もうすれよう。

山梨県白根町の「母と子の健康センター」は妊婦のくわしい検診を無料で行ない、ここ数年、乳児、妊産婦の

死亡ゼロ。脳性マヒ児一人のほか異常児ゼロの成果をあげているという。人口約一万四千。町は年間百万円をこれに支出。やればできる見本である。

× ×

三年前、神戸市が福祉年金制度を設けたのを機に、いくつかの親のグループができた。その一つ灘区重障児父母の会（会長岩田啓子さん）四十八人は、子どもづれで苦勞ばなしや療育のコツを話し合える「いこいの家」を計画した。が月々一人百円の積み立てではとうてい実現は遠い。昨年末、これを聞いた灘質屋組合（小林秀雄会長）が奇金第一号として三万円を贈った。「やがては保母さんやホームヘルパーに来てもらい親の病氣などに備えて託児所にしたい」という夢に、この三万円は大きな励ましと支えを与えた。

「おぎゃー献金」「歩みの箱運動」など、カンパ活動も日ごとにひろがっている。

「重障児への献金は、政治の忘れものをみんなで包み上げる意味のほか、献金目的をわかってもらうことで子どもへの理解を深める意義があります。そこから守る会、がたくさん出来て、やがて大きく手をつなぐ。すばらしいと思いませんか」

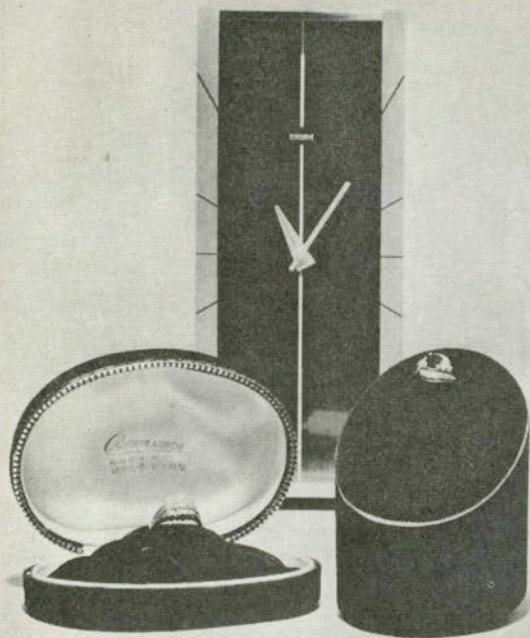
「その守る会が、親たちの仕事や内職のあつせん、施設や家庭への奉仕をやる。重障児の世話はむづかしい、と奉仕活動もまだ低調ですが、おしめ洗いや衣服のつくろいなら出来るでしょう。これはユメじゃありませんよ」――関学大生の五人グループが、口々に語った。彼らの地道なプログララムを聞いているときが、この取材を通じて、最も明るいひとときだった。

そういえば「びわこ学園」をつくったのも精薄施設近江学園を母体とする民間人のつどいだった。徳島では六人の開業医が中心になって治療と収容を目ざした病院をつくった。親の会を核とした地域ぐるみの「子どもの城」――たしかにユメではない。

〈神戸新聞記者〉



気品あふれる仲庭の品をお手許に



時計  
宝石  
貴金属

神戸三宮地下街(さんちか) 39-4593  
 梅田新道(堂ビル北) 341-0215  
 桜橋(毎日新聞社前) 341-0412  
 新大塚駅ステーションストア 302-6670  
 新阪急ホテルセイコーショップ  
 大阪ロイヤルホテルセイコーショップ

仲庭

NAKANIWA

X GREGOR



men's apparel  
 サン.サカエ  
 元町2丁目  
 TEL ㉿7885



# 呉井 雑 子 みよこや

電話神戸③三三八八〇九番  
 大阪店 阪神百貨店三階  
 電話 大阪 ⑤五五四八番  
 姫路店 やまとやしき百貨店三階  
 電話 姫路 ②二二二番  
 衣裳部 三宮町三丁目柳筋  
 電話 ③三五一六五番



何から何まで  
 渋好みのパリッ子

ボン・パリーは洋菓子の  
 本場フランスの味です  
 ブドーと洋酒を上品に、  
 ミックスした風味あるお  
 菓子です



## アルモンド

本店 神戸市生田区元町通2の43  
 直売所 神戸大丸・新聞会館秀品店  
 本店 TEL ③2203